

とかわすわまるいせき  
戸川諏訪丸遺跡

秦野市No.136

調査期間 2016年10月1日～継続中

所在地 秦野市戸川

時代 近世、奈良・平安、縄文

調査原因 中日本高速道路株式会社による新東名高速道路建設事業に伴う埋蔵文化財発掘調査

遺跡位置 秦野盆地の扇頂部、小田急小田原線渋沢駅から3.2km北に位置し、水無川左岸と矢坪沢右岸に挟まれた河岸段丘に立地している。



### 主な調査成果

縄文時代後期の陥し穴状土坑が台地を横断して、東西方向に検出されました。間口2m、深さ2mほどの漏斗状の土坑で、底面には先の尖った杭を立て並べたのか小さな穴が蜂の巣状に見つかります。この深い陥し穴状土坑は、上層の黄褐色土層が堆積していることから、弥生時代にはまだ窪地が残っていたことがわかります。縄文時代中期中葉の遺構では、皿状の土坑に大形礫を敷き詰め、覆土内に破碎礫を充填する集石が見つかりました。縄文時代前期末～中期初頭では、住居跡2軒を中心とした遺物包含層が広く検出され、多くの土器や石器が出土しています。この他に注目すべき出土品として、縄文時代草創期の爪形文土器（厚手）が見つかりました。最も古い土器の仲間でもローム層の上面から約2mの範囲に30点の破片が出土しました。



集石調査状況



列状の大形陥し穴状土坑